

令和6年度パネル展(会期：令和6年9月10日(火)～12月8日(日))

## シルクロードの文化遺産 (1)

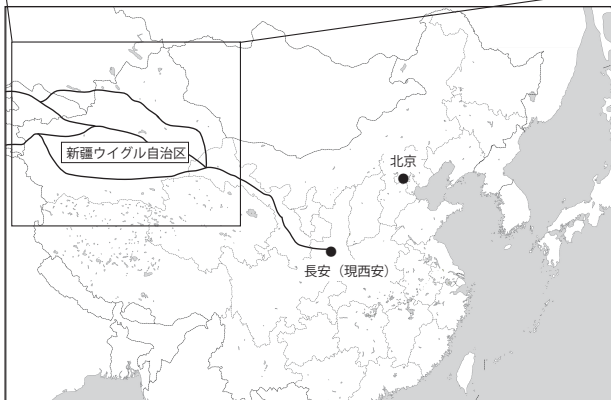
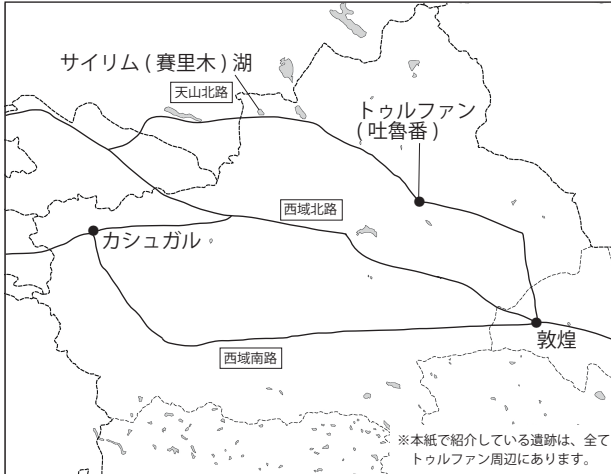
—オアシスの道—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

## 1 シルクロードとオアシスの道

シルクロードとは、かつてユーラシア大陸を東西に結んだ交易の道のことです。紀元前1世紀頃から開かれ、中国大陸の漢の都、長安からヨーロッパまで通じていました。ルートは何本もありましたが、大別するとモンゴルやカザフスタンを通る草原(ステップ)の道、アジアから中東の沿海部を海路で結んだ海の道、そして現在の新疆ウイグル自治区を抜け、アフガニスタンや中東を通るオアシスの道の3ルートに分けられています。古来よりさまざまな人・物・文化が行きかったこの道の沿線には、現代でも多様な文化遺産があります。

今回は、シルクロード沿線の中から、オアシスの道が通った新疆ウイグル自治区を取り上げ、今に残る文化遺産を紹介します。



オアシスの道の概略と新疆ウイグル自治区の主な都市

## 2 トゥルファンの故城

新疆ウイグル自治区は非常に乾燥した土地ですが、一方でサイリム(賽里木)湖などの湖と、カシュガルなどのオアシス都市も点在しており、現在でもこれらの地域を移動する遊牧民に出会うこともあります。そして、オアシス都市の一つ、トゥルファンとその周辺にはさまざまな文化遺産が残っています。はじめに、トゥルファンの二つの城の遺跡を見ていきましょう。

交河故城は、かつてこの地にあった車師前国の王城の遺跡です。この城は『漢書』西域伝にも交河城として登場し、「河水分流して城下をめぐり、故に交河と号す」と記されていますが、上空から見るとまさにその記載どおりの風景が展開しています。城は地面を掘りこんで造られており、城内に入るとメイン・ストリートを中心に街路が縦横に走り、さらに官衙・住居・商業・寺院などの空間構成が認められています。これは、日本にある奴国の比恵・那珂遺跡(福岡市)や吉野ヶ里遺跡(佐賀県)について分析する上で参考となる可能性があります。

カラ・ホージャ(高昌故城)は、紀元前1世紀から14世紀まで、長期間にわたってトゥルファン盆地の政治・経済・文化の中心として栄えた城です。とくに、南北朝時代から唐代にかけて、それぞれ高昌国・西州の都城として繁栄しました。周囲は約5キロメートルにわたって、版築による城壁がめぐっています。城内は、宮城・内城・外城からなり、また唐代に中国からインドへ旅した僧、玄奘が立ち寄ったという広大な寺院跡も残っています。



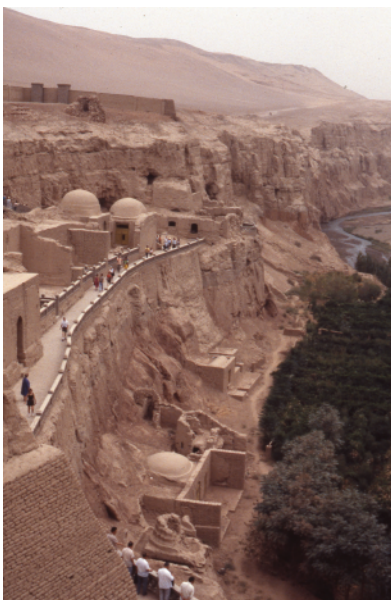
カラ・ホージャ(高昌故城)の遺跡

### 3 二つの石窟群

次に、岩壁を開削して造られた石窟群を紹介します。シルクロードの石窟群といいますと、世界文化遺産に登録され、またかつて日本映画の題材にもなった敦煌の莫高窟が有名ですが、トゥルファン<sup>トルファン</sup>の近くにも二つの石窟群が遺されています。

一つ目はベゼクリク(伯孜克里克)石窟群と呼ばれる遺跡で、トゥルファン市街の東北方約50キロメートルの、火焰山北側山麓<sup>かえんざん</sup>にあります。ムルトウク河右岸の岩壁に、大小70ほどの石窟が開削されています。これらは5～6世紀頃の麴氏高昌国時代に始まりますが、多くは11～13世紀のウイグル仏教期のもので、壁面には千仏や浄土変など多彩な内容の壁画が描かれていました。これらの壁画は、19世紀にヨーロッパの探検隊がこの地を訪れた際に剥ぎ取られてしまったものもありますが、現在でもところどころの壁面に見ることができます。

二つ目は、トゥルファン市街の東方約60キロメートルのところにあるトユク(吐峪)石窟群です。五胡十六国時代から麴氏高昌国時代(4～6世紀)にかけて開削されました。現存する46の石窟のうち、9窟には説法図・説話図・千仏などを描いた壁画が確認されています。



ベゼクリク石窟群の全景



トユク石窟群の全景



トユク石窟群の禮拜窟の内部



アスターナ古墳群



アスターナ古墳群の墓室の壁画

### 4 アスターナ(阿斯塔那)古墳群

最後に古墳群を紹介します。古墳というと北部九州を含め日本のものというイメージが強いかもしれませんが、シルクロード沿いにもアスターナ(阿斯塔那)古墳群と呼ばれるものがあります。トゥルファン市街の東南約30キロメートルのところに位置し、西晋から唐の時代にかけて築造されました。これまでに400基近くが発掘調査されています。

それでは、これらの古墳の墓室を見ていきましょう。日本の場合、古墳の石室は地上の墳丘の中に設けられる形式が主流ですが、大陸では地下に墓室が造られることが多く、アスターナ古墳群も地上から斜道(墓道)を下った地下深くに墓室があります。一方地表部分には、土饅頭形の円丘が築かれています。

この古墳群から出土した遺物には、年代の分かる文書や墓誌をはじめ、紙本著色の墓主生活図やササン朝ペルシャの文様がある染織物、各種の土器や木器など、豊富で貴重なものがあり、さらに被葬者のミイラが遺存することもあります。また墓室の壁面には、故事にちなんだ人物群像や樹下人物図などの壁画を描く場合もあります。

(執筆:名誉館長 西谷 正)

(編集:文化財企画推進室 渡部邦昭)



編集

発行: 令和6年9月10日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3

TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834

URL <https://kyureki.jp>